

標 題 : Effects of Different Doses of Fish Oil on Rectal Cell
Proliferation in Patients With Sporadic Colonic Adenomas
異なる量の魚油の直腸細胞増殖に対する影響、散発性結腸腺腫の患者で

著 者 : M. Anti, et al. (イタリア ローマカトリック大学 内科、病理学科)

掲 載 誌 : Gastroenterology 107: 1709-1718 (1994)

要 旨 :

背 景 / 目 的 : 魚油栄養補給は、散発性結腸腺腫患者の扁平な直腸粘膜で細胞質分裂異常を減らす。魚油栄養補給の最適量を確認し、その影響の長期投与中の持続性を評価するために、この研究を試みた。

方 法 : ダブルブラインド研究で、散発性結腸腺腫の患者 60 名が魚油を 30 日間 2.5、5.1 または 7.7g/日で摂取した。栄養補給前後に採取した扁平な直腸粘膜の生検標本で³H]オートラジオグラフ標識率 (labeling indices)を計算した。

次の研究で、ポリープのある患者 15 名が魚油を 2.5g/日で摂取した。栄養補給の前、途中および 6 ヶ月後に、増殖の値、粘膜の脂肪酸組成および粘膜と血漿の α -トコフェロール値を評価した。

結 果 : 平均増殖地および粘膜アラキドン酸値は、処理群全てで有意に(同程度に)低下したが、粘膜の EPA と DHA の値は上昇した。増殖の有意な低下は異常な初期パターンを有する患者だけで観察された。この影響は長期間低量投与中に持続した。粘膜 α -トコフェロール値の一時的低下が投与 1 ヶ月後に観察された(血漿では低下しなかった)。副作用は重要でなかった。

結 論 : 結腸癌増加リスクと関連する異常な直腸増殖パターンを短期および長期に正常化する作用が、魚油の低い量での栄養補給にある。
